

## 田崎 三郎 博士を送る

田崎三郎博士は2008年3月末日をもって尾道大学を退職されると同時に、私ども教授会の満場一致の推挙により尾道大学名誉教授の称号（第11号）を4月1日付で授与された。

博士は尾道大学経済情報学部を創設するにあたって特別に招聘された教授であったが、着任は2004年4月であり、その在任はわずか4年間であった。

博士は、情報理論とその応用分野における世界的権威者であり、もっと長く在職し私どもをご指導頂きたいと切望したが、それもかなわず、今回、後進に道を譲る形で退職された。したがって、それは勇退とよぶのがふさわしいであろう。

さて、博士は1933年10月に京都府下の宇治市でお生まれになった。巷間にいう昭和一桁世代の最後のグループである。小学校は宇治小学校であったが、途中で国民学校となった。ご卒業は大阪府下の蹉跎きだ小学校であった。入学された中学校は旧制の四條畷中学校であったが、ご卒業は大手前高等学校である。

以上のご紹介からもお分かりのように、博士は戦前戦後の激動の時代を経験された。博士は、大東亜戦争下で少年時代を過ごされ、奉安殿や二宮尊徳を仰ぎ見、「ぜいたくは敵だ」のスローガンの時代を過ごされた。大阪での大空襲や機銃掃射も体験されたようである。

1945年8月以降は戦前の価値観が一変し、博士は教科書を黒く塗りつぶさせられたり、戦後の闇市を徘徊したりしたようである。そのような激変する時代を過ごした博士は、小林多喜二や倉田百三、亀井勝一郎、ロマン・ロラン等を耽読する文学少年であった。しかし、理系分野における抜群の才能を持った博士は、作家の道を選ばずに、大阪府立大学工学部に進学し、1961年3月に同学部電気工学科通信工学コースをご卒業された。僭越ながら、この選択は正しかったであろう。

博士は、大阪市立大学工学部電気工学科助手をへて、1970年4月に愛媛大学工学部電子工学科助教授に就任する。同年12月に、『パルス符号間に相関のある変調方式に関する研究』で大阪大学において工学博士号（第2169号）を取得した。

博士によれば、愛媛大学は関係する分野においてその頃評価の極めて低い田舎の大学であったそうであるが、生来の負けじ魂というか、逆境に強い博士はそのような負の状況をバネに学界の主流から見放されたテーマに的を絞りと、それが将来きっと伸びると予測し先駆的で独創的な研究成果を次々と世界の学界に向けて発表された。それが画像・映像のデジタル符号化技術である。

昨年6月に松山大学で開催された日本地方財政学会に出席するために、私は新尾道駅からJR松山駅行きの高速バスに乗った。ところが、そのバスに松山にお帰りなる博士が乗車し

てきた。松山駅までの2時間あまり、乗客のほとんどいない車中でしまなみ海道沿いの多島美をながめつつ、博士から、ご自身のご研究のエッセンスというか、いかに先駆的なご研究であったかということ詳しく拝聴した。それは、世界的権威者から研究の秘話をじかにうかがうという希有の体験であった。

博士は、洲浜先生と同じマンションに住んでいたが、朝夕、ほぼ同じ時間帯のバスを利用して通勤し極めて punctual な生活をされたように見えた。うかがうところでは、若い頃に大病をされたので健康には人一倍気をつけていた。酒席でもアルコールを口にせず、カラオケを愛された。一度水源地の周囲をご一緒に散歩したことがあったが、博士の歩くスピードには驚いたことがあった。

今後ともお体をくれぐれもご自愛され、よちよち歩きの私どもの学部の今後を暖かく見守っていただきたいと思う。

2008年4月

尾道大学経済情報学部長

尾道大学大学院経済情報研究科長

西 山 一 郎